

風土記の丘の花だより²²²

今、そしてこれから見られる植物(2024年2月10日)

立春も過ぎたので、花木園で春の花を探しましたが、まだ余り咲いていませんでした。それで、今回の花だよりも、花ではないというか、そもそも「植物ではない」ものも二つも紹介させていただくことにしました。(花木園とは、ハクモクレンやコブシが咲く広場のことです)



この写真に写っているもの、普段から「これは何だ?」と思っておられる方も多いのではないのでしょうか。特に雨の後に、芝生や敷石の隙間などに、何やらプニプニとしたものが、生えてくるといふか、出てくるといふか、どちらにせよ、気味悪がっておられるかも知れませんね。これはイシクラゲという名前の藻類(ワカメやコンブなどの仲間)です。でも、海に生えるのではなく、陸地に生える藻類です。名前に石と付きますが、石の上より、地面によく生えますね。食べられるそうですよ。



続いてクラゲです。木に生えるクラゲ、といってもキノコの仲間(菌類)、アラゲキクラゲです。キクラゲはアラゲキクラゲよりも柔らかく、プニプニしていて、歯ごたえに欠けます。野菜売り場で「きくらげ」として売られているのは、ほとんどこのアラゲの方です。中華料理などではコリコリした食感が好まれますね。写真のものは、かなり古い株とみえて、表面に何か別のものが生えていますが、よく洗って天日に干したら、お馴染みの「きくらげ」になります。以上、植物でないものを2つ紹介しました。



そろそろスギ花粉が飛ぶ季節になってきました。風土記の丘でもスギの花がたくさん咲いています。まだ、枝を触ってモワッと花粉が舞うほどではありませんが、これから晴れた日が続くと、そんな状況になるでしょう。写真では、茶色で小さな松ぼっくりみたいなのが雄花、上の方の緑色の丸っこいのが雌花です。花粉はもちろん雄花から出ます。余りうれしくない花かもしれませんが、この機会に雄花と雌花をじっくり観察してみたいはいかがでしょうか。



花木園で咲いていたのはキュウリグサと、このヒメオドリコソウです。小さなピンク色の花を葉の隙間から覗かせています。日本の春の風景にすっかり溶け込んでいるこの草ですが、実はヨーロッパからの外来植物です。上の方の葉は薄紫に染まり、下の方が緑色です。それと花のピンク色のコントラストが愛らしいですね。また、この草は群生するので、一面が薄紫色に盛り上がったように見え、まるで絨毯のようにも見えます。

松下